



2026 年 9 月 10 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 C a s a
代表者名 代表取締役社長 宮地 正剛
(コード番号：7196 東証スタンダード市場)
問合せ先 執行役員 経営管理部長 夏川 賢淑
(TEL. 03-5339-1143)

2027 年 1 月期第 2 四半期累計期間（中間期）連結業績予想と実績との差異に関するお知らせ

2026 年 3 月 12 日に公表しました 2027 年 1 月期第 2 四半期累計期間（中間期）の連結業績予想と本日公表の実績に差異が生じましたので下記の通りお知らせいたします。

記

1. 2027 年 1 月期の第 2 四半期累計期間連結業績予想と実績値との差異

(2026 年 2 月 1 日～2026 年 7 月 31 日)

	売上高	EBITDA※	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	6,600	85	△224	△185	△180	△19.84
今回修正予想 (B)	6,726	204	△99	△62	△79	△8.70
増減額 (B－A)	125	118	124	123	101	—
増減率 (%)	1.9	138.6	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (2026 年 1 月期第 2 四半期)	6,343	157	△143	△94	73	7.29

※ EBITDA＝営業利益＋減価償却費等＋のれん償却額＋償却債権取立益

2. 差異の理由

当第 2 四半期累計期間における連結業績につきましては、売上高が前回公表予想を上回るとともに、売上原価が想定を下回って推移したことから、営業損失、経常損失および親会社株主に帰属する中間純損失は、いずれも前回公表予想に対して損失幅が縮小いたしました。

売上高については、代理店基盤の拡大や既存代理店の利用促進に加え、事業用保証における高賃料帯契約の増加等により、前回公表予想を上回りました。

利益面では、初期回収の強化等により回収率が改善し、保有契約が拡大する中においても求償債権の増加を抑制したことで、貸倒引当金繰入額が計画を下回ったほか、訴訟・処分費用についても想定を下回って推移しました。これら信用コストの改善に加え、売上高の増加が寄与した結果、営業損失は前回公表予想の 224 百万円に対し 99 百万円となり、125 百万円改善しました。

この結果、経常損失および親会社株主に帰属する中間純損失についても、前回公表予想を上回る結果となりました。

一方、通期業績につきましては、当中間連結会計期間において計画を上回って推移しておりますが、信用コストをはじめとする各業績項目については、下期においても一定の変動余地があります。

また、今後のさらなる売上成長と中長期的な収益基盤の拡大に向け、営業体制の強化、事業成長を支える人材の採用・育成、業務標準化に向けた投資等についても、必要性や効果を見極めながら継続していく方針です。

当中間連結会計期間における業績改善は着実に進んでおりますが、現時点ではその上振れをそのまま通期業績予想に反映するのではなく、下期における事業運営や各業績項目の変動余地も踏まえ、慎重に判断することが適切であると考えております。

以上を踏まえ、2026 年 3 月 12 日に公表した 2027 年 1 月期の通期連結業績予想を据え置いております。

以上